

# らは 探訪 歴史 クラブ 其の78

TAHARA History Inquiry Club

## 渥美半島の霊地 1

### 雨乞山・鸚鵡石のこと

広報たはらを読まれた方から、校区の「雨乞山」「鸚鵡石」について質問がありました。地元の方にはよく知られた伝説、地名かもしれませんが、実は、山田町の泉福寺から雨乞山、そして伊川津町の椀周辺については、地形、自然環境のほか、独特の歴史的遺産がある地域なので、かねてから紹介したいと思っていました。2回に分けて、これまでとは違った視点から、この周囲について考えてみたいと思います。



雨乞山

雨乞山は、石神町の西にある標高237mの山です。尾根伝いに西に進むと、その南には渥美半島の名刹・泉福寺があります。この雨乞山から泉福寺に至る尾根は、ウバメガシ（別名イマメ・どんぐり）に覆われており、その間から渥美半島の骨格を形成する「チャート」と呼ばれる岩の塊がこつこつとそく様が、この地方独特の景観を見せています。

この山の名の由来については、いわゆる「雨乞い」にかかわるものと考えるのが妥当でしょう。この山にある雨乞神社の御神体は、長さ20cmほどの石剣です。かなり古いものと思われるのですが、いつの時代のものでしょうか。

鸚鵡石は、伊川津町椀の谷の最も奥に位置した、大きさ15mにも及ぶチャートの巨石です。この鸚鵡石には悲しいお話が伝わっています。

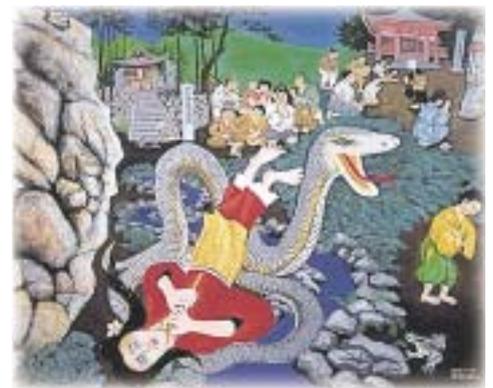
奈良時代に渥美半島を治めた渥美重国が、山中で桜の花を折ろうとする美しい娘を見初め、妻とし、生まれた女兒に「玉栄」と名付けました。

ある日、盗賊が館に押し入り、妻は子を守るうと抵抗するうち、自らの正体、大蛇の姿となりました。その姿を重国に見られた妻は、亀山町の豊島池に移り、池の主となりました。

玉栄は、大蛇の子であるという噂のため、想う男性と結ばれることもできず、悲しみのあまり椀の山中の大岩に登り、母の形見の横笛でのを突いて命を絶ったそうです。以来、



鸚鵡石



鸚鵡石の伝説 (松浦邦治 画)

この岩の前で歌ったり、声を出したりすると、鸚鵡返しのように反響するようになりました。しかし、不思議なことに、笛の音だけは反響しないということでした。

このお話についてはさまざまな説がありますが、重国の妻が大蛇だったこと、そのため、その娘が男性と一緒になれないことを悲しみ、大岩で笛とともに命を絶ったこと、そして、その大岩に人の声が反響することなどは共通しています。

渥美半島の伝説として、この鸚鵡石の伝説は非常に興味深いものがあります。巨石にまつわる伝説であること、この椀の谷にあること…

その理由は次号で説明しましょう。  
(増山)